



間口は広く、敷居は低い クリニックをめざして！ ふしたにクリニック 伏谷加奈子先生

＋エイズ対策のキーパーソンたち

〈500円性病検査〉キャンペーンのニューフェイス、北浜で開業する伏谷加奈子さんに突撃インタビュー！

.....

MASH大阪 (以下M)：最初から医者の道をめざした？
伏谷：いえ、全然。小さいころから機械とか建物の構造が好きで、工学部に行こ

うと思っていたんです。高校生になって社会がわかってきたら、企業に入っても研究者になっても、男社会の中で体力のない自分とはぶん脱落するだろうなって。将来無いわ、どうしよう……って悩んで。高3になって同級生の女子と受験の話をしてたら「私、医者になるから医学部行くねん」と。あその手があったか！って目からうろこで。医者だったら女医さんに診て欲しい人もいるから女であることがマイナスではないかもしれないし、専門職だしずっと働いていけそうって。じゃあ私も医者になろうって、医学部に。そんな感じで医者になったんですけれど、今となっては天職だったなあ。

M：…というのは？
伏谷：人と話すのが怖くて、クラスの間でじっとしてるような子だったんです。それが、医者になったら初対面の困っている人の話を聞くわけ。診断のために何をどう聞くのかっていう技術を深めるうちに、だんだん話を聞くのが楽しくなってきた。楽しくなると上達するみたいで「体調は良くなったから薬は要らないんですけど、先生と話したいから来ました」なんて言われたり。困っていることを聞いてそれを一緒に改善していくこの仕事か、実は性に合ってたんだなって今では思います。M：内科と漢方をされているんですが、漢方には興味は？
伏谷：それが、全然なかったん

ですよ。普通に内科医の研修をしていたんですが、36時間勤務とか、なかなかの激務で身体も心もボロボロ。周りの人はこの仕事をこなせてるのに、私には無理だし辞めるしかないって追い詰まってる。また、将来無いわどうしよう……って。そんな時にたまたま漢方の勉強会に誘われて行ったら、これがまた、目からうろこで。漢方の世界って他人と比べないんですよ。現状の自分を一番良い状態にするために、生活すべてを整えていきましようって。その世界観に救われたというか、自分にできる最大限で仕事を続けていければいいかと思えるようになって。そのまま漢方の世界に。

M：北浜で開業されていますが、思い入れは？
伏谷：それも、無かったんですよ。病院勤務だと、病院のルールで仕事をする訳で。もうちょっと自由に診療をしたいなあと思然と思いつつ働いてて。そんな時に知人から「北浜のビルで開業しない？」って誘いを受けて。あ、その手があったか！って開業しちゃったんです。淀屋橋や北浜地域は、仕事をする街であり、川や中之島などの自然もあり。人もの、空気、水なんかの「流れ」も良くて場の力があるんですよ。ここに内科・漢方クリニックを持ってたのも、今となっては必然だったような気がしています。M：〈500円性病検査〉キャンペーンに参加されたのは？
パッと見は楚々としたレディらしき雰囲気をもといつつも話出すとさすが大阪の女！と思わせるあけっぴろげなところに感服。ここには書けないようなお話もいろいろ聞かせていただきました(笑)。性病、糖尿病、ED……中年ゲイの私たちに馴染み深い病気を気軽に気長に相談できるクリニックがまた一つですね。



発行：MASH大阪
〒530-0027 大阪市北区堂山町17-5 翼ビル4F
☎＆☎06-6361-9300
http://www.mash-osaka.com/
この資料は大阪市のMSM向けHIV予防啓発広報紙作成事業で制作されました。
夏号の紙面VIEW
2 面 時事ネタ WATCH
3 面 トナリの芝生 大阪市北区保健福祉センター
4 面 知られざる偉人伝
7 面 海外男街通信「インドネシア」

こちらのHIV検査場はすべて無料・匿名です

大阪府版(2017年5月26日現在)

無料・匿名でHIV検査を受ける事ができます。
検査日時については各保健所へ直接ご確認ください。
*道順等の詳細についても、各保健所等へ直接お問い合わせください。

[大阪市]	
北区保健福祉センター ● 大阪市北区扇町2-1-27 ☎06-6313-9882	月・火・木・金曜日 / 9時30分～11時 水曜日 / 14時～15時30分
中央区保健福祉センター 大阪市中央区久太郎町1-2-27 ☎06-6267-9882	火・水・木 ● / 9時30分～11時 第1金曜日★(HIVのみ) / 14時～15時
淀川区保健福祉センター ● 大阪市淀川区十三東2-3-3 ☎06-6308-9882	月曜日 / 14時～15時30分 火曜日 / 9時30分～11時
chotCASTなんば (大阪検査相談・啓発・支援センター) 大阪市浪速区難波中1-6-8 イチエイ総合ビル3F 火・木・土曜日 / ☎06-6632-0632 日曜日 / ☎06-4256-8681 ※いずれも検査実施時間帯のみ。	火・木曜日 / 18時～20時(先着50名) HIV・梅毒・B型肝炎 土・日曜日★ / 14時～15時30分(先着50名) HIV・B型肝炎 ※土曜日は13時30分に整理券を配布。 日曜日のみ事前予約制→ (スマホ)http://www.npo-jhc.com/namba-kensa/ (フューチャーホン) http://www.npo-jhc.com/namba-kensa/m

[高槻市]	
高槻市保健所 ● 高槻市城東町5-7 ☎072-661-9332	毎週金曜日 / 9時30分～10時30分
[豊中市]	
豊中市保健所 ★ 豊中市中塚塚4-11-1 ☎06-6152-7316	第1火曜日・第3木曜日 / 13～14時

[枚方市]	
枚方市保健所 ● 枚方市大垣内町2-2-2 ☎072-807-7625	毎週火曜日 / 10時～11時30分

[大阪府]	
池田保健所 ● 池田市満寿美町3-19 ☎072-751-2990	第1・2火曜日 / 13時30分～14時30分
吹田保健所 ● 吹田市出口町19-3 ☎06-6339-2225	第2・3・4金曜日 / 9時30分～10時30分
寝屋川保健所 ● 寝屋川市八坂町28-3 ☎072-829-7771	第1・3水曜日 / 9時30分～10時30分
守口保健所 ● 守口市京阪本通2-5-5(守口市庁舎内) ☎06-6993-3131	第2・4月曜日 / 10時～11時
八尾保健所 ● 八尾市清水町1-2-5 ☎072-994-0661	第2・4木曜日 / 9時30分～10時30分
富田林保健所 ● 富田林市寿町3-1-35 ☎0721-23-2681	第1・3水曜日 / 13時30分～14時30分
和泉保健所 ● 和泉市府中町6-12-3 ☎0725-41-1342	第2・4水曜日 / 9時30分～11時
岸和田保健所 ● 岸和田市野田町3-13-1 ☎072-422-5681	第1・3火曜日 / 13時30分～14時30分
茨木保健所 ★ 茨木市大住町8-11 ☎072-624-4668	第1・2・4木曜日 / 13時～14時
四條畷保健所 ★ 四條畷市江瀬美町1-16 ☎072-878-1021	第1・3月曜日 / 9時30分～10時30分
藤井寺保健所 ★ 藤井寺市藤井寺1-8-36 ☎072-955-4181	毎週水曜日 / 9時30分～10時30分
泉佐野保健所 ★ 泉佐野市上瓦屋583-1 ☎072-462-7703	第1・3月曜日 / 13時～14時

マークの説明

- HIV検査と同時にクラミジア及び梅毒の検査も無料で出来る施設です。
- ★ 即日検査できる施設です。 * 通常の検査では一週間、即日検査はその日のうちに結果がわかります。

6月1日(木)～7日(水)はHIV検査普及週間です!!
HIVには予防・早期発見・早期治療が有効です。

エイズ、性感染症について、気軽にご相談ください！

HIV陽性とわかった時、またエイズや性感染症について相談したり、情報が欲しい時、大阪には相談できるサービスや支援があります。気軽にお問い合わせください。

HIV検査や性感染症などに不安がある方 コミュニティ センター ディスタ community center dista 性感染症について知りたひ、相談や心配事がある。そんな方にはご相談ください。お話を聞き、一緒に考えるお手伝いをします。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人もいて安心です。 ☎06-6361-9300 月曜・水曜・日曜 / 17:00～22:30 火曜 休 http://www.dista.be/ 大阪市北区堂山町17-5 翼ビル4階	HIV陽性とわかって間もない方 ひよっこクラブ HIV陽性とわかって間もない人たちのためのグループミーティング HIV陽性とわかって間もない人同士が集い、安心できる場所で情報や体験を話したり聞いたりする事で、これからの生活のより良いスタートにつなげていくプログラムです。 http://www.hiyokkoclub.com/	HIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性 Cafe・Bar an opportunity ～ただのきつけ～ HIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性がふっと立ち寄れる場所。谷町6丁目駅から徒歩3分のところにあるお店で、毎月第二日曜日14時～18時に開催しています。 注：月曜日が祝日の場合には第三日曜日 詳細はこちら http://www60.atwiki.jp/anopportunity/
HIV陽性の方、パートナー・家族の方も サポートライン関西 匿名で利用できる電話相談です。かけたきた方の番号は表示されません。あなたの疑問や心配ごとについて、一緒に考えます。スクリーニング検査で陽性となった方にもご利用いただけます。 ☎06-6358-0638 月曜・水曜(祝祭) 15:00～21:00	エイズに関する様々な相談をしたい方 エイズに関するご相談を電話で受け付けています。お気軽にご連絡ください。 ☎0120-177-812 (無料) ※携帯電話からは、03-5259-1815まで(有料) 月曜～金曜 / 10:00～13:00、14:00～17:00(祝日は除く)	

[南界堂通信 第19号 編集後記]

●40歳を迎えるにあたり割と大規模な同窓会の開催が決まり、幹事役に任命されたのですが、その理由が「家庭を持っている訳でもなければ、子供に割かれる時間もないから!」との事。お気楽なおひとりさまゲイになりたいくてなった訳ではないのに何だか悔しい!!(伴仲)
●マルディグラを見たくて三月にシドニーへ。夜のバレードはきらびやかなだけではない。私のこどもはトランスでそして素晴らしい!といったプラカードを掲げた方に声援を送る。制服の警官隊が行進するのもし。音に合わせて手を振ることも。途切れなく続く三時間。(泰平)
●かなり長いあいだ外食中心の生活だったのが、何かの拍子に「なるべく家でごはんをつくって食べるようにしよう!」って思うようになり、実行するうちに、ナント家に帰るのが楽しみになってきた!ただし近うのか思いつつ……めぐるしい時代ですが、少しでも先を読みたいものです(大畑)
●今号2面のシンボを聞いて思った事ですが、改めて「歴史を振り返る事は未来を考える事」。トランプ大統領の登場なんて誰が予測できたろうかと思いつつ……めぐるしい時代ですが、少しでも先を読みたいものです(大畑)
●先日、誕生日でした。南界堂を始めたのは30代。その頃は、あまりピンときていなかった紙面の内容も、気がつけば身近な話題ばかり。喜ぶべきか悲しむべきか。(田中)

時事ネタ
WATCH
中高年MSMと暮5L

シンポジウム〈報告〉

「HIV陽性者の運動は何を獲得したのか？」

20年前に
何があったのか。

2月、NPO「ネットワーク医療と人権(MERS)」主催で、「HIV陽性者の運動は何を獲得したのか？」というシンポジウムが開かれました。

基調講演は、稲場雅紀さん(アフリカ日本協議会ディレクター)の「ゲイ・レズビアン」の解放運動は前進したのか?と新ヶ江章友さん(大阪市立大学准教授)の「日本の「ゲイ」とHIV/AIDS」が話され、後半は、主催者MERSの花井十伍さんも加わり鼎談に。

稲場さんは「動くゲイとレズビアン」の会の一員として、葉書



エイズ裁判(注1)が和解で終結した後、ちょうど20年前(1997年)、「エイズ予防指針」(注2)の策定の経緯に触れます。この「エイズ予防指針」には、**配慮を要する「個別施策層」として「男性同性愛者」が明記された**のですが、稲場さんはその過程に関わります。

総括していました。その後2000年代に入り、大阪のdista、東京のakitoといったセンターが設置され、国の予算によるエイズ対策が進んでいきます。

裁判で勝訴的な和解という追い風の中、予防指針策定の小委員会に、葉書エイズ原告の花井さん、ゲイで陽性者の大石さんらが入り、稲場さんもその作業を担いました。そこで、男性同性愛者を「個別施策層」として明記する事に関して、稲場さんは他方で「権力への不信」も抱いていたと語ります(実際、裁判の和解までは、悪名高い「エイズ予防法」が、陽性者を監視・隔離の対象にしていた)。

「しかし、(ゲイが現に黙殺されており)「隠される事によって嘲笑される存在(だった)」と述べ、その現況を変える意味でもあえて「個別施策層」に「男性同性愛者」を明記する方向へ動いたと語ります。こうした当事者がエイズ予防政策に関わる過程は、「アイデンティティ・ポリティクスによる権利獲得運動」だったと

新ヶ江さんは著作(注3)の中で「HIV/AIDSの社会問題化を分析する際に重要なことは、私たちは一見自由に行動しているように見えても、実はその行動は権力に方向づけられ、突き動かされているということである。そして気づいたときには、権力にがんじがらめにされている。日本の男性同性愛者の生きづらさの根源には、この自由と権力の抜き差しならぬ関係があると言える」と述べており、公衆衛生という「国策」によってゲイ向けエイズ予防施策が推進されていることの両面性を指摘しています。今回の発言もこの文脈にそったものと理解できます。

事で、複眼的な視点の必要性を痛感しました。また、**歴史を振り返ることは、これからの未来を考える事とも繋がります。**稲場さんは、エイズの「医療化」が進展する一方、「社会的アプローチ」が後景化しており、これは国際動向の逆輸入でもある、との指摘をしました。花井さんも、今進んでいるエイズ予防指針の改定では、陽性者の当事者が委員にいないという問題を指摘しました。また、グローバルな製薬企業の力が大きくなる中で、**プレップ(注4)やHPVワクチン(注5)**といった新薬が登場し、この点を「身体の社会化」とも評していました。

「医療化の進展と社会的アプローチの後景化」は、まさに先述のプレップの導入等、ゲイ・コミュニティにとっても重要な問題でもあります。本誌でもまた取り上げてみたいと思います。



大阪最大のゲイタウン、堂山から歩いて約10分、JR環状線天満駅(地下鉄堺筋線であれば扇町)からすぐのところにある
大阪市北区保健福祉センターにお邪魔してきました。

大阪市北区保健福祉センター

大阪市北区扇町2-1-27 ☎06-6313-9882
http://www.city.osaka.lg.jp/kita/page/0000215984.html

【検査日時】
月・火・木・金／9時30分～11時
水／14時～15時30分



ター、定期的に検査に来る人もいるそう。受付時間が限られているにも関わらず、これまで日に最高27名の受検者がやってきたこともあるそう。

地条件故に混み合うこともありますが、受付時間内に来所して下さった方は、たとえ時間が押していたとしてもしっかりと対応させて頂きます!と何ともし心強い!



北区保健福祉センターは、右記検査日時にあるように**月曜日から金曜日まで毎日検査を実施している**のが大きな特徴。日によってバラつきはあるものの平均10〜15人が検査にやってくる。利用者の割合としてはやはり**堂山が近いだけあってMSMも多く**、外国人やトランスジェン

2階の検査室では、事前の説明、採血、検尿と看護師さんが丁寧に対応。相談事やカウンセリングが必要な場合には、1階の健康相談窓口で保健師さんが話を聞いてくれる。また**第1、3水曜日の14時から16時まではカウンセラーによるエイズ専門相談も実施**している。検査を受けた後に寄って行く人もいれば、専門相談だけにやってくる人もいるとのこと。

「ドキドキしながら検査に来られる方に気持ち良く帰って頂く」スタッフ全員で共有し、実践しているだけあって、ちょっとした会話やきめ細やかな対応でホッとする受検者も多いはず。思い立ってすぐに行ける立

最後、北区の特徴をお伺いしたところ、「昔ながらの長屋からタワーマンション、商店街から百貨店、地下街と何でもある街」というお答え。「何なら西日本最大のゲイタウンまでありますよ!」とツッコませて頂きましたが、改めてそう言われると街中をブラブラ散歩する楽しみが増えたような気がします。

「**ドキドキしながら検査に来られる方に気持ち良く帰って頂く**」スタッフ全員で共有し、実践しているだけあって、ちょっとした会話やきめ細やかな対応でホッとする受検者も多いはず。思い立ってすぐに行ける立

エイズ
番外編
追っか+

HIV感染が
判明した時

病氣と生活の見通しの話

サポートライン関西の電話相談では、自分が陽性であることがわかった直後に電話をしてくださる方もおります。そういった電話で多くある心配事が、「いつまで生きられるんだろう...」「今後の自分の生活はどうなるんだろう」といった病氣と生活の見通しについてです。今回はそれについてお話させていただきます。

エイズ発症したとき
何らかの介護が必要となったとき

上記のように、発症自体を阻止することのできるエイズですが、免疫力が低下しても必ずしも自覚症状が出るとは限らないため、**自身が感染していることを気づかず**にエイズ発症となり、その時に初めてHIV感染を知るという方もいらっしゃるようです。その場合でも、医学的目覚ましい進歩により、多くの症状は治せる時代になっております。

その一方で、治療が功を奏した後も、**身体や脳の機能に障害が残**り、リハビリが必要となる方もおられます。あるいは、HIVそのものは薬でウイルスを抑えられていても、例えば脳梗塞などにより後遺症が残った場合など、一人

文 ● HIVサポートライン 関西

NPO法人CHARMによるHIV陽性の方や家族、パートナーのための電話相談。病氣や治療のこと、医療費や生活費、障害や介護保険など制度利用について、学校生活や仕事、恋愛やセックスの悩みなど、病氣とともに生きる上で起こる様々な問題について相談に応じている。相談日時は毎週月・水曜日の19〜21時(祝日、年末年始は休み)、匿名での相談が可能。

HIV 陽性の人とパートナー・家族のための電話相談
☎06-6358-0638
(月・水19〜21時／祝休)

独裁と闘い、エイズと闘ったキューバの作家(1)

偉人伝

知られざる



レイナルド・アレナス
(小説家・詩人／1943～1990)

彼の一生を振り返ってみよう。

1943年、キューバ島東部の貧しい農家に生まれたアレナスは、幼い頃から同性に魅かれていた。初めてのセックスはこう語られる。

――仕上げの行為は従兄のオルランドとのあいだでかなえられた。ぼくは8歳くらい、オルランドは12歳だった。ぼくはそのペニスに惹かれていたし、オルランドは機会あるた



びにぼくに見せて喜んでいた……あるときアラムの木によじ登ってその美しい亀頭をみせてくれているとき、オルランドの帽子が落ちた……ぼくはその帽子をつかんで駆けだし、離れた場所に立っている木の後ろに隠れた。オルランドはぼくの望みをちゃんと理解した……やがてオルランドがぼくに突っ込み、そのあとぼくが頼まれて突っ込んだ。蠅やその他の虫が飛びかう中でそんなことをしたが、虫たちもその祝宴に加わりたがっているようだった――

カストロらの革命が成功すると、政権は革命文学を育成するための文学賞を創設、これに応募したアレナスは見事選抜され、職業作家としての道を歩みはじめる。この時受賞したのが小説『夜明け前のセレスティノ』(安藤哲行訳、国書刊行会、2001年)だ。このとき、浜辺に着くということは楽園みたいなところに着くようなものだった。若者は誰もがそこでセックスしたがっていた。誰かと敷にしけこううという若者たちが何十人もいた。

年である。ところがカストロ政権は次第に同性愛行為を弾圧する方針をとりはじめ、アレナスと政権との関係は緊張を孕んだものとなっていく。多くの作家が沈黙するか革命の大義への転向を表明するなか、アレナスは表現の自由と同性愛行為の自由をあくまで追い求めたから、1980年に米国に亡命するまで数々の苦難――当局の監視、いやがらせ、脅し、原稿の接収、親友たちの裏切りそして投獄――を生きながら作品を書き続け、原稿を海外から訪れる知人に託す。知人は原稿をバリーやバルセロナの出版社に持ち込み、出版社はセンサーシヨナルな宣伝文句とともに作品を出版する……こうしてサイクルが繰り返され、そのたびにカストロ政権の面目は丸つぶれ。締め付けはますます厳しくなり、アレナスにとってキューバで生存し続けることが体が困難なものとなる。そんなときでも、アレナスは男漁りを決してあきらめない。

――そのころ、浜辺に着くということは楽園みたいなところに着くようなものだった。若者は誰もがそこでセックスしたがっていた。誰かと敷にしけこううという若者たちが何十人もいた。

ラ・コンチャ海水浴場の脱衣所でいったい何人の若者にものにされたとか。この瞬間はたぶん二度とないだろう、いつ警官が来て逮捕されるかもしれない、だから思う存分楽しまなくてはと悟っていたのか、みんな必死だった――

こういう風に書くと、読者の皆さんはカストロ政権はここまで同性愛者を弾圧していたのか！と驚かれるだろうし、実際そうなのだけれど、『夜になるまえに』は少しも暗くない。むしろ自分を主人公に据えた冒險小説を読むような味わいに満ちているのだ。ここにアレナスの真骨頂がある。自分はフィデル・カストロという独裁者の下で作家として、また同性愛者として生きることを運命づけられたのであるから、その運命を引き受けることは自分にとってアタリマエなのだ、と言わんばかりの深さ、そして溢れんばかりのユーモアがある。

『夜になるまえに』は少年期の回想からはじまるわけだが、それに先立つ冒頭の部分で、読者は抜き差しならない事実と向き合うことになる。アレナスはそこで、米国で亡命生活を送っていること、すでにエイズを発症

していること、そしてウイルスが自分の生命を奪うまえに自死を選ぶつもりであることを、彼らしいカリリとした文体で語る。思えば、彼がキューバを抜け出しマイアミにたどり着いたのは1980年、米国のゲイコミュニティでエイズが猛威を振るいはじめた時期とピタリ重なり合う。まもなく彼は感染し、87年には発症、90年に病状がさらに悪化して、自死へと至るのだが、その10年間、米国へ亡命した後のアレナスについては、次号で取り上げます。

文 ● 塚塚哲郎

あと数年で定年を迎える大学教員。MASH大阪前代表。スペイン語圏の文学と文化、特に音楽とダンスを偏愛。死ぬまでに再訪したい街はハバナとイスタンブール。十数年前訪れたハバナではゲイやレズビアンが集まるパーティーに潜入したが、オーガナイザーはなんと日系の60代の女性だった。「弾圧されている」空気は感じられず、もはや違法ではないとも聞いた。ハバナ近郊のゲイビーチに行ったとき、地元的美青年が同行の友人に「海の中で一発一発でどう？」と持ちかけ、その後友達になってずっと一緒に進んでくれた。「アレナスの頃とちょっと変わってないやん！」って思えてうれしかった。「一発」っていう額がキューバでのセックスの気軽さを物語っている？……



中高年世代の
語学大会
身体を動かして合う会

緊禪一番

今回も中高年世代を中心にたくさんの方に「来場いただいた南界堂茶会。第6回目は「中高年世代の語学大会とエクササイズ」をテーマに開催されました。フィットネスアドバイザー秀一・HIDEEさんをゲストに迎えお話を伺いました。



スタジオ風にマットを敷き詰めた会場で靴を脱いであがり、体を動かすのかなと思ったところまず座学から。

塩屋で声かかるかな……というような漠然とした思いだとそれなりの体に。次の健康診断までに血糖値を下げるという現実的な目標を立てることが大切。2年後にボディビルダー大会に出たいという勢いで運動をする

と短期間で成果が出る。

「男は裏切っても筋肉は裏切らない」きちっとやればやるほど結果が出る」という秀一・HIDEEさん。ボディビルを始めたのは6年前39歳の時ということに驚き、その言葉に納得しました。

トレーニングには運動、食事、休息の3つが大切ということ。まず、食事のお話。ボディビルダーは食事の脂質とたんぱく質と炭水化物の量を気にしている。脂質は1日に食べてもよいカロリー(総カロリー)の10%。総カロリー2940カロリーの

方で33グラム。豚肉の脂は体に残るので食べないが、魚の脂は筋肉によいので焼き魚より脂が落ちていない煮魚を食べるそうです。

筋肉と対話しながら運動をするのがポイントとわかりました。実際にはどのようにするかを今後シリーズでできないかと思っています。

男色エンタメ紀行

映画『ムーンライト』

米アカデミー賞をもぎとった『月光』は深い余韻をもたらす映画

対照的だって思ったし、トロンでもそんな扱いだったかな。あと、カラダとか肌とかの質感をふくめ、等身大の黒人が描かれていたところがよかった。クレホさん…等身大っていうのは、片想いの相手が料理を作るところが新鮮だった。アメリカ南部のアフリカ系、キューバ系黒人のつつましい暮らしぶりがさびげなく出てたよね。

マヤさん…そう、さりげなくリアルが追及されてましたね。ローカルな社会に麻薬がしっかり根を下ろしていることとか、麻薬の売人になるのが黒人にとってはずっとの選択肢だとか、その麻薬にもソフトなものとかハードなもの、二種類あるとか……そういうシビリアンな現実がセリフで語られるのではなく、ジワッと浮かび上がってきました。

トロンさん…登場人物の孤独みたいなものもジワワってくるよね。主人公はゲイなんだけどゲイコミュニティと全く繋がって

ないし、「ゲイ」っていう自覚があるかどうかよく分からない。片想いの相手のことはもっと分からない。マヤさん…そのあたりもさりげなく、ジワッとなんですよ。セリフでなく、画面に語らせてる。とってもローカルで、だからこそみんなにアピールする、ニクイ映画。

クレホさん…同感！余韻が深くて、また見たくなる。でもオレみたいな隠れホモからしたら、「よくぞ作品賞取ってくれたよねえ。大手を振って見に行けるわけだし……」でもオレが行ったとき、ノンケカップルでいっぱいだった。

マヤさん…アタシのときもそう。ノンケさんにはどう見えるのかしらね？「え、これが作品賞？」なのか？さすがアカデミー賞！なのか。

トロン・クレホさん…オレはさすがアカデミー賞！に一票！

トロン

カナダ・トロントにひと月語学留学したんだけど、「すっかり一皮むけたね～」とまわりから賞賛(?)の嵐の30代男性。

マヤ

自称「隠れホモ」だけどまわりからは「隠れもないホモ」と見られている、40代男性。

クレホ

20代トランス系女子。最近とみに美しくなった、とまわりは騒いでいるが、本人はいたって無頓着を装っている。

Indonesia

distaに時々顔を見せるブディさん。
ジャカルタのゲイライフについて語っていただきました。



▲ジャカルタ中心部



▼昼のタマンラワン



▲夜のタマンラワン

ジャカルタ出身のブディと申します。日本の大学院で経営学を勉強したいと考えていて、いま日本語学校に通っているところです。祖父母が中国から移住してきた移民一世で、わたしは三世、ジャカルタの北部、港の近くにある中国人街で生まれ育ちました。自分のことはバイだと思っています。小学校の頃、テレビで上半身裸の男の姿を見て、ムラムラしたのを覚えています。でもこれは

恥ずかしいことだから誰にも言うまい」とも思いました。インドネシアには、スマトラ島の北部の州を除いて同性間の性関係を禁じる法律はありませんが、同性愛は恥ずかしいことだと考える文化はあります。人口の9割がイスラム教徒で、日常生活を送るうえでたくさんルールがあり、ルールからはずれることは言いづらい。私自身はクリスチャンなのですが、キリスト教会も同性愛にはキビシイので、以前は「同性愛のことは死ぬまで言わないでおこう」なんて思っていました。

状況が変わったのは、18歳の頃、ゲイ向けの英語のアプリを偶然見つけたとき。ドキドキしたと同時に、見つけたこと自体を後悔

インドネシアのLGBT事情

もしました。マジメだったんですね(笑)。半年くらい経ってようやくフツーに使えるようになり、友達も5人、10人できて、後悔しなくなりました(笑)。日本のようなゲイタウンらしきものはジャカルタにはないので、友達と会つのはレストランとかショッピングモール。

22か23の頃、はじめてハッテン場のサウナに行きました。好奇心で行っただけなので何もありませんでしたけど(笑)。家の近くにあったせいか、客の大半は中国系でしたけど、ジャカルタの他の地域だったら中国系でない人が多いのではないかと思います。日本のサウナと違うのは大部屋がなく個室だけ。大部屋でエッチなこ

男for you 朋友

パークアベニュー入口煙草屋の片尾さんインタビュー

堂山の入口に座って半世紀

堂山に遊びに来る人たちが最初に目にするお店がパークアベニューの入口に店を構えるあの煙草屋さん。長くお店を切り盛りする片尾聖子(かたお・まさこ)さんにお話を伺いました。



東洋一とうたわれたナイトクラブ・アローがあって、洋裁学校もあった。ナイトクラブでは坂本スミ子さんやアイ・ジョージさんが歌ってましたね。パークアベニューが様変わりするのは、阪急百貨店が建て替え中の頃は、大阪駅からの人の流れが途切れ、路面店が寂れていった。そこにフーズクの店が入り込んできたと私は見ています。

M:ゲイの人が行くお店は昔からあった?

片尾:ストークというお店がありましたね。立派な店でした。ホモの方向けの完全会員制のバーで、全国からお客さんが訪れたと聞いています。ご店主はいつも着物を着こなして、颯爽としてられました。女ですから業界のことはよく分かりますけど、ストークを核にしていろんなお店が出来てきた印象があります。

M:当時から「これはゲイタウンなんや」みたいな意識はおありになった?

片尾:ええ、ええ。お店の客は

大別して3つに分かれます。通りがかりのサラリーマンたち、堂山に遊びに来る人たち、そして堂山で働いている人たち。通りがかりの人たちは煙草を買ってそれでおしまいですが、遊びに来る人たちとは会話が生まれるんですね。その人たちの多くはホモの方たちでしたから、「新御堂越えたらオカマな歩き方ではないの〜」なんて冗談も言うてました。中には「今度田舎に帰省するんやけど、自分がホモやってこと、親に言うたほうがええんかな?」なんて難しい相談を持ちかけられることもありました。必死に考えて「一時の遊びのつもりなら言う必要なし。ずっとホモとして生きていくつもりなら、言うたほうがええよ」って答えた記憶があります。

M:当時のゲイと今のゲイとで違いは感じられますか?

片尾:昔はやっぱり隠れホモの方が多かったからでしょう。ストレスの溜まる職場や家庭を離れ、「堂山のバーでママさんに癒されに行ってくるワ〜」って人

が多かった。そんな人たちも今では中年になって、「店の若い子を癒しに行ってくるワ〜」なんて言いながらバーに行かはります(笑)。

今の若い子たちは昔のようないろんな相談は持っていないかわり、「オバチャンに覚えてもらったら堂山では一人前って言われました」なんて言うてるから「ワタシはオカマの管理人とちゃうでー」(笑)。ちなみに、若い女の子たち、ガールズバーで働いているような子らはマナーが悪いので厳しく注意すると「堂山のどうもならんオバハンや!」と来るから、こっちは「中身はオッサンやで〜」って言い返すんです(爆笑)。

M:最近の堂山をどうご覧になっていきますか?

片尾:淋しく思うことが二つあります。一つは、ご近所さんが少なくなったこと。もう一つはフーズクのお店が増え、探め事も増えて警官の姿が毎日のように目につくようになったこと。堂山はやっぱりホモの街であり続けてほしい。ホモの人たちはここでしか満たされない癒しを求めてやってくる。フーズクは別に堂山でなければならぬ理由はないと思うんです。ワタシはこの通りを「パークアベニュー堂山」っていうややこしい名前ではなくて「オカマ通り」って呼んでます。「このワタシちゃんお店のマスコットのシズー犬、男の子?女の子?」って訊かれたら、「堂山の子よ」って答えるんですよ(笑)。

M:おもしろくて貴重なお話、どうもありがとうございます。



て目銭をかせぐわけなんですけど、ただ追い払うだけじゃなくてちゃんとチップを払うところがインドネシアらしいかもしれませんね。もともとゲイのイメージはエイズ、性病、シスターボーイなどと結びついたネガティブなものだったから、公の場でカミングアウトする人が出にくい状況があります。最近ファッションデザイナーやテレビの司会者が「実はゲイだった……」みたいなスキャンダルとして報道されることがあって、ネガティブなイメージがますます強くなっているように思います。だからやっぱりゲイの友人以外に自分のことは言いたくないですね。

「大部屋でエッチは無理!」って

いう発言、逆に日本のゲイ文化を物語っているようにも思いました。サウナに大部屋はつきもの、という考え方自体がガラパゴス化してる?あと、タマンラワンと堂山の違いは何なのか? パーというものが社会だと、少数者が集まる場所はどうつくられるのか? ブディさんの話を聞きながらそんなことを考えていました。それとシスターボーイという言葉、懐かしい響きですね。昔の日本では、セックスフーカーの意味はなて、「なよなよした女っぽい男の子」を意味する言葉だったと記憶しています。オリジナルはどこから来たんでしょうか? (哲)